金沢文庫と称名寺散策

2024 年 10 月 10 日（日）神奈川放友会主催の「金沢文庫と称名寺散策」に参加したので報告します。
「史跡名所　”称名寺と金沢文庫”」の散策は 10 年程前にもありましたが小雨の日でした。二度目の訪問ですが、秋晴れの好天に恵まれた楽しい一日でした。

京浜急行「金沢文庫駅」改札ホール 10:30 の待ち合わせをし、11 名の参加者を確認できましたので引率者の担当理事・会長より挨拶を頂き、10:40 出発でした。県立金沢文庫まではお互いに久しぶりの再会に話が弾み、ゆっくりした足で徒歩 15 分弱の道のりでした。

Am11:00　65 歳以上の割引観覧料 200 円で全員の受付が終わると、解説案内を予約してあったので、地下大会議室へ案内された。武家の都「金沢北条氏と金沢文庫」で、収蔵庫、栄華物語、幕府の高官北条実時等の資料二万点以上などのビデオ観賞でした。「久米田寺と称名寺」特別展示でした。時の僧侶は「称名寺と久米田寺」に憧れて集まっている。両寺院の歴史を解き明かす資料が、一階・二階展示資料室に特別展示されていました。資料は岸和田の久米田寺から借りた資料で、国宝級のものばかりの企画展示でした。

専属の学芸員により案内され説明を聞いた。

正直言って自分には理解し切れない学僧話しであり、国宝級の資料も字が読めず理解できませんでしたが、熱心な解説を聴きながらの一時間余の鑑賞でした。

称名寺は鎌倉幕府の重鎮であった金沢北条氏の菩提寺で、各地の学僧が集まる律院であり、また真言密教弘道の道場、そして華厳修学の一代拠点でした。

称名寺歴代長老の第三代長老の本如房湛睿（たんえい）は華厳、戒律、真言などの碩学でしたが、彼が教学の研鑽を深めたのは和泉国久米田寺（大阪府岸和田市）でした。また、久米田寺は行基創建と伝わっており、鎌倉時代からの中世絵画や古文書が多数伝来しているそうです。

一方、湛睿とその周辺の僧侶が久米田寺で活動したことから、称名寺にも久米田寺に関する史料が多数伝来しており、現在、県立金沢文庫が管理する国宝「称名寺聖教・金沢文庫文書」の一角を占めているのだという。久米田寺と称名寺は遠く離れた両寺院ですが、中世には密接な僧侶の交流があり、互いの歴史や教学研究の面で深い関係にありました。
今回の特別展では久米田寺と称名寺伝来の資料群に加え、湛睿を始めとする僧侶の活動と寺院間交流のなかで生成した資料を一堂に集め、中世久米田寺の歴史を紹介するとともに、知られざる両寺院の歴史を解き明かそうとした展示でした。

明恵上人像（久米田寺所蔵）、湛睿和尚像（称名寺所蔵）、安東蓮聖像（久米田寺所蔵）など、多数の国宝や重文を鑑賞できました。

学芸員の説明を聞き、資料を見ながら、以上のように理解をしました。一時間ほどの鑑賞でしたが、金沢文庫が和泉国久米田寺と繋がりがあった、その文化を改めて勉強したという事でした。

金沢文庫玄関前で参加者の集合写真を撮りました。

解説が長かったので午後一時を回っていたと思います。称名寺へは、広重の金沢八景の錦絵が飾ってあるトンネル道を抜け、北条実時の銅像を見ながら称名寺境内に入った。反橋と仁王門の屋根が見える何字ケ池前に出た。金堂と平橋・反橋が眺められる浄土庭園です。池には錦鯉が悠々と泳いでいた。
「称名寺」は鎌倉時代に北条実時が、今の称名寺がある場所を別荘として住んでいました。そこに作った持仏堂が称名寺で、金沢北条氏の菩提寺と学問寺

として栄えたところですが、実時の子・顕時（あきとき）、孫の貞顕（さだあき）の時代に称名寺は繁栄しており、仁王門は 1818 年に建てられています。

お腹がすいたので、称名寺はほどほどにして金沢文庫駅前の商店街に足を運びました。早々に見つけた和食の店の 2 階に席を取り、ビールで乾杯し懇親を深めました。皆さんからは、「こんな企画が、また欲しいですね」という声が聞こえていました。

また、幹事からは 11 月の懇親会及び 12 月の講演会と音楽の企画について情報伝達がありましたが、ゆっくりと歓談出来たと思います。3 時を過ぎていたと思いますが、4 人程のグループがはしご酒を求めて解散をしました。　　（記　長谷川武）